

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2773201484
法人名	けいはん医療生活協同組合
事業所名	グループホームきんだ
訪問調査日	平成 20 年 4 月 30 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 21 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2773201484
法人名	けいはん医療生活協同組合
事業所名	グループホームきんだ
所在地	大阪府守口市金田町2丁目25番15号 (電話)06-6900-6771

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年4月30日	評価確定日	平成20年5月21日

【情報提供票より】(平成20年4月18日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 1 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	10 人	常勤	2 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 7.9 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	有(円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(4月30日現在)

利用者人数	7 名	男性	2 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79 歳	最低 65 歳	最高 86 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	けいはん医療生活協同組合みどり診療所 松下歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは守口市北部の寝屋川市に近い場所にある。運営の母体はけいはん医療生協である。定員7名の利用者が入居しているが自治会組織がある。すなわち、自治会長さんが居り、食器荒いや清掃、カラオケ係など入居者の役割や当番を自治会を開いて決めるそうである。もちろん職員の支援を受けながらであるが、利用者はやりがいを見出したり、共同生活の問題解決になったり、仲良く、楽しく暮らしていくための利用者間のコミュニケーションに貢献しているように感じられる。毎朝、ホームの玄関先で行われるラジオ体操には最近では近所の住民も参加するようになっていた。管理者および職員は地域に溶け込んだホームを目指して様々な工夫をした取り組みを行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員も一緒に食事をするという課題を取り上げて、職員間で意見を出し合った結果、現在では利用者と同席して食事が行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解して自己評価への取り組みが行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は過去1回のみ開催されたが、その後は開催出来ていない。運営推進会議を通じて地域との交流を深めるためにも定期的な開催が期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族との連携をとるために、月々の請求支払いについて振込みでなくホームへの持参をお願いしている。介護計画に家族の要望を反映するよう家族とのコミュニケーションをとるように努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎朝のラジオ体操に近所の住民が参加したり、近くの市立保育園との交流を設けている。金田2丁目自治会の盆踊りや清掃活動に参加している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前任の管理者が掲げた理念「人が好き、笑顔が好き、明るい町が好き」と、「本音で暮らす」を理念としているが、地域との係わりについての言葉がない。	○	職員も利用者も本音で話し合い、住み良いグループホーム作りがなされているが、地域との関わりの中で暮らしていくという理念も盛り込んでほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフスペースの壁に、みんなの本音を大きな紙に書いて張っている。常にみんなが意識するようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	すぐ近くの市立保育園と交流がある。自治会と連絡をよくし、盆踊りや清掃活動に参加している。玄関先で毎朝行う体操に近隣の住民が参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価での改善課題であった職員の食事については、スタッフが話し合いその必要性を考えて、利用者と一緒に食事をとるようにした。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設年度に一度実施したが記録が残されていない。今年度の年間予定は立てているが具体的な内容についてはまだ進展がない。	○	行政にも協力を求め、自治会、老人会など地域にも強く働きかけて、運営推進会議を開催することの意義を説明して参加してもらうことが課題である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護を受けている利用者が比較的多いため、市役所の担当者とよく連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員は家族の来訪時に、利用者の暮らしぶりや健康状態について詳しく報告をしている。小口預かり現金の出納状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に出来るだけ訪問をお願いするために、月々の支払いは振込みでなく持参としている。年2回、家族会を開いて話し合いの場を設けている。また来訪時にも随時話し合いができるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	デイサービスも併設しているので担当以外の職員とも顔馴染みになっている。異動がある場合は利用者が不安にならないよう言葉かけに注意している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修の受講を義務付けている。また自主的に介護の通信教育も全員が受講している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他の事業所とは連携はよくとれているが、地域の同業者との交流はあまり出来ていない。	○	運営推進会議などを通じて行政の協力も求めながら、地域のグループホームとの交流の機会をもたれることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に併設のデイサービスを利用したりして、グループホームの入居者や職員とも顔馴染みになっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に調理をしたり、経験を生かして家具作りを頼んだりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者は要求や苦情があると、用紙に記入し「虹の箱」(投書箱)にいれることになっている。利用者でつくる自治会で開封し、みんなで本音で話し合いをし、解決策を見つけ出そうと努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議を開いて意見を交換している。また入院した利用者は、退院時には担当医や看護師とのカンファレンスを行い、グループホームに帰ってからの生活を支援している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しをすると共に、日常生活で状態が変化した時は、様子を観察しながら必要なときには計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	2ヶ月に1度、地域住民対象に血圧や体脂肪測定などの健康チェックをしている。また介護相談にも乗っている。地域の小学校の福祉体験学習に協力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の診療所で受診する利用者もあるが、かかりつけ医で継続したい利用者はそのまま受診できるように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	緊急時には担当医や家族に連絡し、これからの対応について話し合いをし、決定している。ホームでの終末期対応は現在のところ考えていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所に1人、接遇委員を置き、みんなで意識を高めている。接遇委員会で目標を立て、自己評価・他者評価を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝、利用者全員がすすんでラジオ体操に参加し、一日の始まりとしている。1人ひとりが思い思いの生活ができるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝に入居者それぞれに係り当番を決め、配膳や片付けなど積極的に体を動かすことができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居前の生活と変わらないように、との思いから入浴は夜になっている。しかし、入居者の入りたいときにいつでも入れるよう対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者で自治会をつくり、会長のほか係り当番制(調理・掃除・片付けなど)を決めてそれぞれが張り合いを持って過ごす工夫をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日最低2回、近くの公園に散歩に出かけている。また近くのスーパーなどに買い物にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階部分にホームがあるためにエレベーターを利用するが、安全のための暗証番号操作としている。見通しの利く場所に出口があるので職員は外へ出ようとする利用者があれば見守りながら落ち着きを待つようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防訓練に参加するなど、職員も含めた災害対策意識向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量のチェックが行われ、準看護師資格の計画担当者が目を通している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、居間、食堂等の共用空間は清潔に保たれている。居間には利用者の協力で造られた畳敷きコーナーが設けられ団欒や居場所として利用が出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅から持ち込まれたなじみの物品や仏壇などが置かれて、利用者一人ひとりが落ち着いて過ごせるように職員が利用者や家族と相談しながら工夫している様子が伺える。		